

2025

FORCE
FOR
GOOD

ニュースキンジャパン
社会貢献活動



FORCE FOR GOOD



NOURISH THE CHILDREN

子どもたちの笑顔と大切な地球のために
For Children's Smiles



SUSTAINABILITY

Force for Good (フォース フォー グッド)

それは、豊かな未来をつくるための 大切な合言葉。

ニュースキンではForce for Good (人々がより豊かになるための力となる) を合言葉に、子どもたちの笑顔と大切な地球のための活動を行ってきました。歩み続けてきた歴史をご紹介します。

1993 「Force for Good」の誕生



ニュースキンは1984年、米国ユタ州で創業。以来、「あなたにとって良いものだけを…」という思いから生まれた製品を世界中にお届けしてきました。そして1993年、創業者ブレイク M. ローニーの「一丸となって、世界をより良くする力 (Force for Good) になろう」という言葉から、社会貢献活動のテーマであるForce for Goodが生まれました。

1996

フォース フォー グッドの活動は、感謝の気持ちから始まりました



エスネビック製品の開発にあたり植物の知恵を与えてくれた先住民に感謝を表し、製品1個お買い上げにつき25セントが寄付され、先住民の文化の継承や環境保護等に役立てられるフォース フォー グッドキャンペーンを展開。2021年までの25年間で1,300万ドル以上を寄付しました。



エスネビック製品は、民族植物学の世界的権威ポール A. コックス博士 (写真左上) とパートナーシップを組み開発されました。

1998

米国で財団が設立され、子どもたちに笑顔を届け続けています

エスネビック製品によるフォース フォー グッドキャンペーンをカタチにするため、社会貢献活動の母体となるニュースキン フォース フォー グッド財団を米国本社が設立。財団では、子どもたちが病気や貧困に苦しむことなく、十分な教育を受けられ、希望をもってより豊かに暮らせる環境づくりを目指しています。



NU SKIN
FORCE FOR GOOD
FOUNDATION

詳しくは
こちら (英語)
▶▶▶



2002

ビタミンールによる食糧支援が始動。子どもの命を救い、成長を助けています



飢餓に苦しむ世界中の子どもたちのために、チャリティとビジネスが融合したナリッシュ ザ チルドレンが始まりました。これは、ビタミンールという製品 (栄養食) を会員や社員が購入・寄付できるプログラムです。日本では2003年に開始しています。

2006 @Japan



日本独自の基金が設立され、国内にも笑顔が広がり続けています

「日本国内でも支援の輪を広げたい」という多くの声により、ニュースキンジャパン フォース フォー グッド基金が設立されました。基金では、支援団体とコラボレートしながら、児童養護施設やひとり親世帯、東日本大震災被災地の子どもたちの「食」と「教育」につながる支援、マラウイ共和国への農業教育支援、そして大切な地球のための活動を継続しています。



2016 @Japan



製品を使うことが、社会貢献につながる。日本独自の One for Smiles が始まりました

「好きな製品を使って子どもたちを笑顔にしよう」というスローガンのもと、ニュースキンジャパンで始まったOne for Smiles プログラム。全製品の売上利益の1%がニュースキンジャパン フォース フォー グッド基金に寄付されます。

だれかのためのアクションが、
自分の未来を明るくする。
つながっているから、できること。
あなたと変えたい未来が、明確にあります。

ニュースキンジャパンの社会貢献活動一柱となる3つの取り組み

食の不均衡や教育機会の不均等、子どもたちの飢餓や環境破壊など、私たちの住む地球には
たくさんの方の困難があります。そんな世界の泣き顔を、未来の笑顔に変えていきたいという想いから、
フォース フォー グッド活動、ナリッシュ ザ チルドレン プログラム、サステナビリティへの取
組みをととして、さまざまな支援を継続しています。

**FORCE
FOR
GOOD**

フォースフォー グッド

子どもたちの明るい未来に
つながる活動

▶ P4~10

**NOURISH
the CHILDREN**

ナリッシュ ザ チルドレン

世界中の飢餓に苦しむ
子どもへの支援

▶ P11~14



SUSTAINABILITY

サステナビリティ

持続可能な環境への
取り組み

▶ P15~16



**FORCE
FOR
GOOD**

フォース
フォー
グッド



「食べること」と「学ぶこと」で子どもたちを笑顔に。

子どもたちがみな、栄養のある食事をとり、スキルや可能性を育む教育
を受け、のびのびと過ごせるように。ニュースキンではForce for Good
の理念のもと、食糧支援・教育支援・被災地支援・マラウイへの農業教育
支援を続けています。

【マークの見方】

参加方法によって支援内容が異なります。支援したい活動のページ下部にあるマークを参考にして、参加方法をご確認ください。※詳しくは裏表紙をご覧ください。



One for Smilesで参加可能



単発寄付で参加可能



継続寄付で参加可能



ビタミン購入・寄付で参加可能



食糧支援

子どもたちが食に困らず、希望をもって歩めるように。



累計寄付金額(2006年~2024年)

約5.1億円

「支援を必要としている子どもたちに直接届けたい」と願い、2006年より、フードバンクのセカンドハーベスト・ジャパンとパートナーシップを組み活動しています。ニュースキンは、会員とセカンドハーベスト・ジャパンと共に子どもたちへ食と笑顔をお届けしています。

毎月22,000食*以上を子どもたちへ届ける



22,000食/月

セカンドハーベスト・ジャパンとのパートナーシップ

児童養護施設やひとり親世帯で暮らす子どもたちへ食糧をお届けするため、毎月150万円の寄付を行っています。

*1食(400g)を提供するためにかかる平均費用は68円(セカンドハーベスト・ジャパンの2024年データに基づく)。



ひとり親世帯300世帯に

隔月で食品を提供



300世帯/隔月

フードフォーキッズ

日々の食事とお弁当づくりに必要なお米や調味料のほか、企業等から寄付された食品を箱詰めして届けています。箱詰めはボランティア参加者によって行われています。



日本の子どもの貧困

こども家庭庁支援局家庭福祉課 令和6年4月「ひとり親家庭等の支援について」によると、ひとり親世帯の相対的貧困率は44.5%と高い水準となっています。



たくさんの「ありがとう」が届きました。



年2回、約2カ月間で集まった食品を必要とする人に届ける



SECOND HARVEST セカンドハーベスト・ジャパン



フードドライブ

家庭で眠っている食品を持ち寄るフードドライブをブランドセンターや本社等で実施しています。会員・社員より寄付された食品は、フードフォーキッズの利用者などに届けられます。

週2回、子ども食堂で成長を応援



Kids Café(キッズカフェ)

食事の提供はもちろん、支援企業やボランティアによる食育、工作に関するイベントを提供するなど、子どもたちの成長を応援する役割をもつ場所です。食の支援が必要な子どもだけでなく、だれでも無料で利用できます。



認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン ▶▶▶ <https://2hj.org/>

「すべての人に、食べ物。」という理念のもとで活動する日本初・最大のフードバンク。食品関連企業や個人から、まだ食べられるのに、さまざまな理由で流通できない食品を譲り受け、児童養護施設の子どもたちや生活困窮者などの元に届けるフードバンク活動を行っています。



継続寄付で参加可能 ※詳しくは裏表紙をご覧ください。



教育支援 子どもたちはみなリーダーになれる。その可能性を育む学び支援。

一般社団法人The Global Leadership Impact Fund Japan、フランクリン・コヴィー・エデュケーション・ジャパンとパートナーシップを組み、2016年より、学校文化創造プログラム「リーダー・イン・ミー」の導入支援を継続しています。
東日本大震災の被災地の子どもたちが未来を「生きる力」を育み、大きく成長することを願い、東北の公立小学校への導入を支援しています。



公立小学校 累計**38校**
14,611人に
学びの輪が広がっています
(2016年～2024年)

一人ひとりが自分で考え、行動。多くの成長を実感

リーダー・イン・ミー

リーダー・イン・ミーを導入した世界中の小学校では、子どもたちに、自信、チームワーク力、率先力、想像力、表現力、リーダーシップ、問題解決力、コミュニケーション力がつき、結果的に学力が向上したとの報告があります。生活指導上の問題も減り、教員のモチベーションや保護者の満足度も向上したそうです。



ニュースキンでは公立小学校への研修やワークショップの実施、テキストの制作、配布などの支援を行っています。テキストでは、ニュースキンが紹介されています。



子どもたちからも嬉しい声が届いています。

責任をもてるようになって、
自分自身のリーダーとして成長したいです。

自分で考えて行動できるようになりたいです。

ゴールをきめてから始める
ことをがんばりたいです。



LeaderinMe®

FIND YOUR VOICE

リーダー・イン・ミーのプログラムとは？

リーダー・イン・ミーは、21世紀に生きる子どもたちに必要なスキルを育むための教育プログラムです。「すべての子どもはリーダーになれる」という方針のもと、「7つの習慣®」に基づき、教育者たちと協力して開発されました。プログラムは、1つの学校に3年をかけて導入します。



スティーブン・R・コヴィーのベストセラー ビジネス書『完訳7つの習慣』人格主義の回復』。

突然ですが、想像してみてください……

もし、学校に通う子どもたちが、**責任感をもって主体的に行動し、自分で目標を立てて、それを達成し、自分たちの問題や課題を自分たちで解決できるとしたら、どうでしょうか？**

これは、リーダー・イン・ミーを導入している学校で現実になっていることです。

子どもたちが育む、リーダーシップの考え方の基準「7つの習慣®」

1. 自分で考えて行動する。
自分に責任をもつ。
2. ゴールを決めてから始める。
何が大切かを考える。
3. 大事なことから今すぐに。
自分の約束を守る。
4. Win-Winを考える。
みんながハッピー。
5. わかってあげてから、わかってもらう。お互いにわかり合う。
6. 力を合わせる。みんなで考えた方がうまくいく。
7. 自分を磨く。
成長し続ける。

3年間かけ、「7つの習慣®」を学校の文化に育て上げます

1年目

まず全教員がリーダーシップの考え方の基準となる「7つの習慣®」を学び、子どもたちの目線で「7つの習慣®」を教えるながら学校全体で「リーダーシップスクール」の実現を目指します。

2年目

「7つの習慣®」の考え方や行動をもとに「目標達成に必要な技術」を学び、実践することで、主体性を発揮できるリーダーとして、教員から子どもたちへのエンパワメント(力づけ)を促進します。

3年目

リーダーシップを発揮することにより、子どもたちが学校の中心となり、会議や活動の計画、運営を行っています。学校や社会への貢献を意識したリーダーシップ、すなわち「生きる力」を育てていきます。

※「7つの習慣®」および「リーダー・イン・ミー」は、米国フランクリン・コヴィー社またはフランクリン・コヴィー・ジャパン株式会社の登録商標です。



被災地支援

子どもたちの心を豊かに。被災地の声に耳を傾け、必要な支援を継続。



東日本大震災支援 累計寄付金額
(2011年～2024年)

約**3.4**億円

【東日本大震災 被災地への継続支援】



累計**41,540**セット
(2011年～2024年)

楽しく学べる
文房具セットを届ける
キッツフォー キッツ **6月**



累計**15,230**セット
(2011年～2024年)

大好きな
お菓子を届ける
クリスマスギフトプラン **12月**

リーダー・イン・ミーを導入している被災地の公立小学校のほか、セカンドハーベスト・ジャパンを通じて児童養護施設の子どもたちに贈られます。



小学校を訪問し、直接子どもたちへ(写真左)。
会員と社員が共にラッピング(写真右)。



累計**10**市町村
142校 23,585人へ
31,771冊
(2013年～2020年)

心を育む本を寄贈
スマイル ライブラリー プラン

震災当時に外で遊ぶことができなかった子どもたちのために、本を届けました。
図書不足の各小学校へ赴いて希望を募り、地元の業者に発注しました。



【各地の自然災害等への緊急支援】



日本赤十字社*1へ寄付

約**897**万円
(2024年1月、4月)



ニュースキン製品を提供*2

合計**2,500**個と**6,800**セット
(2024年3月、6月)

被災者の生活支援のために、義援金を寄付し、現地で必要とされるニュースキン製品を届けました。



日本政府など*3へマスクを寄付

合計**43,500**枚
(2020年4～7月)



赤い羽根共同募金や
国境なき医師団へ寄付

合計**400**万円
(2020年4月)

深刻化していたマスク不足に対するマスクの提供や、各種支援活動への寄付を行いました。



マラウイ共和国への

農業教育支援

家族の自立をサポートし、子どもたちが食べて・学べる未来を届ける。

世界の最貧国のひとつ、マラウイ共和国の子どもたちが栄養ある食事をとり、学校に通える環境をつくるためには、彼らの家庭の経済的な自立が欠かせません。そこで、マラウイ政府・大学と協力し、SAFIの農業教育を多くの村に効率的に広めるために活動しています。

累計**10,188**世帯の家族が参加 (2023年現在)

農業支援を通じた経済的自立支援

マラウイ現地の環境に合わせたプログラムにより、多くの家族の自立を促します。そのノウハウは、将来的に子どもたちへと受け継がれ、長い間この地域の人々を支えていくことになります。



農業教育支援トレーニング後、
品種改良されたトウモロコシや大豆の
種子を受け取った農家たち。



農業教育支援プログラムの特徴

- 政府に雇用された農業指導員を教育し、マラウイ全土へ効果的に広めます。
- SAFIのノウハウを活用し、生産量を増加させます。
サッカー場約1面分の土地でのトウモロコシ栽培において、通常7袋の収穫に対し、SAFIのノウハウにより40袋の収穫が可能になりました。
- 選出された模範的な家族は、輪作の仕方、作物学、家畜学を習得します。
効率よく収穫ができる農家にはインセンティブが与えられます。インセンティブと農業での成功体験が参加家族の意欲を高め、同じ村の農民たちにより影響を与えます。



SAFIとは？

家族の自立を支援する農業学校「School of Agriculture for Family Independence」(SAFI)。2007年にニュースキンフォースフォーグッド財団が地元の非営利団体や市民団体と提携して建設。約30の家族が生産性を高めるための農業の知識や技術を学びます。



マラウイの貧困

労働人口の80%が農業関連事業に従事している伝統的な農業国。しかし農業の基本的な知識はなく収穫量が限られていることから、貧しい国に数えられています。

*1 日本赤十字社「令和6年能登半島地震災害義援金」へ1月に会社から300万円、4月に会員・社員・会社から5,979,195円を寄付。 *2 ニュースキン エクストラマイルド フェイシャル クレンジング、スキン ローション、エッセンス、クリーム、ニュースキン ハンド ローション、エスネビック プロツサム エッセンシャルオイル ハンド クリーム セット、エスネビック ボディ バター ギフトセット *3 児童養護施設や公立小学校、日本政府 合同マスクチームなど。



世界中の飢餓に苦しむ
子どもへの支援



NOURISH the CHILDREN

ナリッシュ
ザ チルドレン

その1食が、子どもたちの未来をつくる。

世界中の子どもたちがすくすくと成長していけるように。ニュースキンでは、会員と社員によって購入された栄養食「ビタミール」を、飢えと栄養不良に苦しむ世界中の子どもたちに無償で届けるプログラムを実施しています。



ビタミール

ビタミールの食糧支援は、
栄養、教育、雇用も届けています。

■ 飢えを満たすだけでなく栄養を届ける

重要な栄養素を摂取できない状況に置かれた子どもたちは栄養不良となり、脳や骨、免疫系の発達が妨げられてしまいます。そんな子どもたちを救うため、ファーマネックスの研究チームがビタミールを開発しました。栄養不良の子どもたちの成長を助けるために必要な栄養素がバランスよく配合されています。

■ 子どもたちの教育を支える

多くの家庭では、子どもたち(特に女の子)に家の手伝いをさせており、日々の食事でもまかなえないほどです。しかし、ビタミールを学校給食として無料で提供したところ、親は子どもたちを学校へ行かせるようになり、結果として教育支援にもつながっています。



ビタミールとは

ビタミール1袋は5歳未満の小児の30食に相当し、1食で240キロカロリーを摂取できます。1袋を受け取った子どもは、栄養ある食事を1か月間、毎日1回とることができます。



400人の
雇用を生み出す

■ 400人の雇用を生み出すビタミールの製造

ビタミールはマラウイの工場で製造されます。原料には現地の農作物を使用するため、ビタミールの製造は全体で400人の雇用を生み出しています。工場を建設したことで、輸送費の削減につながるだけでなく、現地経済の活性化に貢献しています。

ナリッシュ ザ チルドレン プログラムの流れ

会員・社員が購入し、寄付されたビタミールは、ニュースキンがまとめ、民間援助機関を通じて子どもたちに届けられます。ビタミールの配布にかかる費用はニュースキンが全額負担しています。



ナリッシュ ザ チルドレンがサポートする工場で、ビタミールが製造されます。



寄付者が購入したビタミールを、信頼できる民間援助機関に寄付します。



民間援助機関が、支援をもっとも必要とする人々にビタミールを届けます。



ナリッシュ ザ チルドレンには子どもたちの成長や健康状態が定期的に報告されます。



ビタミール

日本で購入・寄付されたビタミールは
マラウイの子どもたちの明日の笑顔になる。



マラウイ共和国

□ アフリカ南部 □ 人口2,110万人 □ 国民総所得 (GNI) 189位 / 198カ国中
※2023年世界銀行調べ。

5歳以下の子どもたちの2人に1人が栄養不全といわれている、アフリカのマラウイ共和国。自然災害に見舞われることも多く、さらにHIV感染者が多い国としても挙げられ、子どもたちは生まれたときから多くの困難を背負っています。

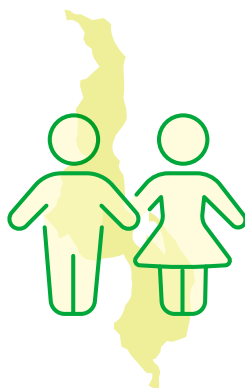
[マラウイの子どもたちの現状]

5歳未満で命を落とした子どもの数

16人に1人

食糧不安に苦しみ緊急人道支援を
必要とする子どもの数

224万人



5歳未満の成長障害の割合*

35.5%

金銭的な貧困に
直面する子どもの割合

57% 24%の
子どもたちは極度の
貧困状態にある

出典: UNICEF Malawi Annual Report 2023

*特に栄養不足などの健康の問題により、年齢に応じた標準身長・標準体重からのずれが著しい状態。

ビタミールを食べて笑顔になった子どもたち



パトリック ジョナサン

2歳で両親をHIVで亡くし、困難な環境の中で高齢の祖母と暮らす少年。ある日、彼に重度な栄養不良の兆候があらわれ、心配した祖母が保育所に相談したところ、ジョイス バンダ財団を通じてビタミールを受け取ることができるようになりました。4歳になった彼の健康状態は大幅に改善され、勉強にも熱心に取り組む優れた子どもに成長しました。



ルンビ

栄養不足により学業に支障をきたしていた6歳の少女。それを知ったニュースキンはパートナーシップを組む団体を通じて彼女が通う学校にビタミールを届けました。すると彼女の健康状態と成績は飛躍的に改善。空腹で元気がなかったほかの子どもたちにもビタミールが提供されたことで学習意欲が高まり、出席率が急上昇しました。



NTC レコグニション プログラム

ビタミールをNTC ADP*と単発で購入し、寄付を通じてForce for Goodの精神を実践されている会員の方々を称えるプログラムです。

※ブランド メンバー専用。
*ナリッシュ ザ チルドレン オートマティック デリバリー プログラムの略。
ビタミールを定期購入し、寄付すること。

詳しくはこちら
(要ログイン)



フレンド

1か月に30食を届けることができます
あなた自身が1か月にビタミール1袋を購入・寄付



1袋
▶ 約30食



ロング ターム フレンド

1年間の継続で360食を届けることができます
あなた自身が1か月にビタミール1袋を購入・寄付し、12か月継続



月1袋以上
×12ヵ月
1年間継続で
▶ 約360食



NTC アンバサダー

1年間の継続で約6,000食を届けることができます
あなた自身、もしくは、あなたのグループ(第1世代のダウンライン)で毎月ビタミールを合計16袋以上購入・寄付し、2ヵ月継続(あなた自身の購入・寄付:4袋以上必要)



月16袋以上
×2ヵ月
1年間継続で
▶ 約6,000食

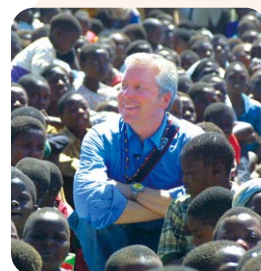


NTC チーフ アンバサダー

1年間の継続で約24,000食を届けることができます
あなた自身がNTC アンバサダーを達成し、かつあなたのグループ(第1世代のダウンライン)で同じ月に3人が「NTC アンバサダー」を達成



月16袋以上
×2ヵ月×4人
1年間継続で
▶ 約24,000食



ナリッシュ ザ チルドレンは、
私たちのビジネスの5%かもしれませんが、
私たちのあり方の95%を象徴しています。

ニュースキン エンタープライズ創業者 ブレイク M. ローニー

私たちは、世界のForce for Goodになることをミッションとしています。ナリッシュ ザ チルドレンは、栄養不良や飢餓に瀕した子どもたちに命を吹き込む機会を与えてくれます。Force for Goodとなるうえで、これに勝るものはありません。



ビタミール購入・寄付で参加可能 ※詳しくは裏表紙をご覧ください。14

持続可能な
環境への取り組み



SUSTAINABILITY サステナビリティ

今日の一步は、10年後につながっていく。

もっとワクワクした未来の地球に出会うために。ニュースキンでは、**Planet** (地球)、**Product** (製品)、**People** (人々) の観点から、サステナビリティ(持続可能性)向上を目指しています。製品パッケージの簡素化や環境に配慮した成分の採用、環境保全やリサイクル活動などに取り組んでいます。

Planet
地球

Product
製品

People
人々



グローバル

エコパッケージ

サステナブルな未来へ向けて、
環境に配慮した製品パッケージづくり。



削減できた量 (2023年)

プラスチック
約40トン
※500ミリリットルのペット
ボトル149万本分に相当。

紙
約12.5トン
※標準的なコピー用紙
275万枚に相当。

2030年までに全製品のパッケージを簡素化し、サステナブルなものに変える施策を進めています。製品パッケージが環境に与える影響を評価するスコアリングシステムを2019年に構築し、2023年にも30製品以上の評価、改善を行いました。



日本

環境保全

みどり豊かな地球を
目指すための活動を継続。

霧多布湿原の保全活動

霧多布湿原ナショナルトラストへの支援

「美しい自然を未来の子どもたちに引き継ぎたい」というミッションを掲げる認定NPO法人 霧多布湿原ナショナルトラスト。ニュースキンは、素晴らしい自然を保護する必要性を感じ、2000年に支援を開始しました。2023年からは、健全な生態系の維持に欠かせない水源となる森をつくるための「霧多布湿原ニュースキンの森」植樹プロジェクトも行っています。

累計寄付金額 (2000年～2024年)

5,840万円



ニュースキンの森が豊かに育つことを願いながら、2024年も会員・社員で苗木50本を植えました。

空き容器リサイクル活動



Force for Greenリサイクル プログラム

ニュースキン製品の使用済み空き容器を回収・リサイクルする活動を2021年より実施しています。空き容器は、リサイクル業界の草分け的存在であるテラサイクルのリサイクルプログラムを活用して、新たなものづくりのために再生利用されます。



累計回収量 (2021年～2024年)

約40,928.6キログラム
(1,020,194個)



回収容器から生まれ変わったペンケースと鉛筆キャップ。2023年に東日本大震災被災地の子どもたちに届けました。



One for Smilesで参加可能 ※詳しくは裏表紙をご覧ください。16

つながる力で広がった笑顔の数

ニュースキンはForce for Good（人々がより豊かになるための力となる）というミッションの実現を目指し、フォース フォー グッド活動、ナリッシュ ザ チルドレン プログラム、サステナビリティへの取り組みを行ってきました。



FFG基金
13 億円

ニュースキンジャパン フォース フォー グッド基金 (FFG 基金) の累計金額は13億円を超え、子どもたちや地球のためのさまざまな活動に役立てられています。
(2006年～2024年)



食糧支援
毎月 22,000* 食以上

児童養護施設やひとり親世帯で暮らす子どもたちへ食糧を届けるために、毎月150万円の寄付を行っています。



教育支援
累計 14,611 人

リーダー・イン・ミーの導入支援を行った公立小学校は累計で38校。今日も子どもたちがリーダーシップについて学んでいます。
(2016年～2024年)



被災地支援 本・文房具セット・クリスマスギフト
累計 88,541 点

キッツ フォー キッズ、クリスマス ギフト プラン、スマイル ライブラリー プランを通じて、東日本大震災 被災地の子どもたちに図書や文具、お菓子を届けています。
(2011年～2024年)



ビタミール累計寄付数
8 億 5,000 万食

ナリッシュ ザ チルドレン プログラムを通じて会員・社員が購入し、飢餓に苦しむ子どもたちに無償で提供されたビタミールは8億5,000万食を超えています。
(2024年7月時点)



空き容器リサイクル
累計回収量 約 40,928.6 キログラム

ニュースキン製品の使用済み空き容器を回収・リサイクルするForce for Greenリサイクル プログラム。回収容器は新たなものに再生利用されています。
(2021年～2024年)

*1食 (400g) を提供するためにかかる平均費用は68円 (セカンドハーベスト・ジャパンの2024年データに基づく)。

世界中のニュースキンが届けた笑顔

ニュースキンは約50のマーケットでビジネスを展開し、世界各地でも、子どもたちの健やかな未来のための活動を行っています。ここでは2023年の活動の一部をご紹介します。



グレート チャイナと東南アジアで先天性心疾患の子どもの手術を600件以上。これは各地域のチルドレンズ ハート基金によるもので、1999年以降に30,000件以上行われています。

メキシコ全土で口唇口蓋裂手術を計1,500回。手術は口唇口蓋裂治療プログラムを提供するモバイル サージェリー インターナショナルにより行われ、資金は南北アメリカからのニュースキン フォース フォー グッド財団への寄付でまかなわれました。

世界で評価されたニュースキンの社会貢献活動

人々がより豊かになるための力になりたい。そんなニュースキンのForce for Goodの活動は、世界中のさまざまな外部機関より高く評価されています。※以下はニュースキン エンタープライズでの受賞歴の一部です。

2023



ベストインビザアワード
インターナショナル部門
CSR プログラム オプサイマー
銀賞



インターナショナル
CSR エクセレンスアワード
コーポレート シーズンシップ

2022



ビジネス インテリジェンス
グループ (BIG)
サステナビリティ
リーダーシップアワード
(企業)



ベストインビザアワード
インターナショナル部門
グローバル企業の
社会的責任への取り組み
金賞



コミュニタスアワード
コミュニティサービス・企業の
社会的責任 (CSR) における
リーダーシップ部門
倫理・環境の責任における
リーダーシップ部門

東京・表参道で、Force for Goodをもっと身近に

ニュースキンの社会貢献への想いに触れながら、支援活動にも気軽に参加できる店舗・ブランド センター。定期的にボランティア活動も実施しています。



子どもたちへの食糧支援につながるCafé

全メニューの半額がニュースキンジャパン フォース フォー グッド基金に寄付され、ひとり親世帯へ届けるお米の購入費用等にあてられます。お米はニュースキンジャパンとセカンドハーベスト・ジャパンの特別コラボパッケージで届けられます。



笑顔の輪を広げるグッズ等の展示

リーダー・イン・ミーの教材や空き容器をリサイクルして製作した文房具、子どもたちからの感謝の声、活動の動画などは3階に。

ブランド センター

製品体験、肌や栄養状態のチェックなども可能。ニュースキンの魅力を丸ごと楽しめます。
東京都渋谷区神宮前5-7-14 月・火・木・金・土 11:00～21:00、日 11:00～19:00 (水・祝 休)

つながる力から、豊かな未来を。
あなたのアクションから
生まれる笑顔があります。



〔参加方法のご案内〕

ニュースキン会員の方は、どなたでも社会貢献活動にご参加いただけます。
参加方法は大きく3つあり、役立てられる支援の内容が異なります。

詳しくは
こちら▶



製品購入を通じた寄付



One for Smiles プログラム

使い道 ●サステナビリティへの取り組み*1



フォースフォーグッドキャンペーン
(エスネピック製品)

※エスネピック製品1個お買い上げにつき25セントがニュースキン
フォースフォーグッド財団に寄付され、先住民の文化の継承、環境
保護、難病根絶などに役立てられます。

ニュースキンジャパン フォースフォーグッド基金への直接寄付



1,000円からできる単発寄付

使い道 ●日本国内の子どもへの「教育」支援など

- サステナビリティへの取り組み*2、
緊急災害支援など
- マラウイ共和国への農業教育支援(SAFI)



マンスリーサポートによる継続寄付*3
※ブランドメンバー専用。

使い道 ●日本国内の子どもへの「食糧」支援など*4

ビタミールの購入・寄付



ナリッシュザチルドレンプログラム

使い道 ●世界中の飢餓に苦しむ子どもへの支援

ニュースキンジャパン
社会貢献活動 公式Webサイト



*1 霧多布湿原保全活動、空き容器リサイクル活動。 *2 *1以外。
*3 次の2つの寄付申し込み方法があります。毎月のボーナスの1%~
を寄付/毎月のボーナスから定額を寄付。 *4 ボーナスからの単発
寄付も対象。

NU SKIN®

ニュースキンジャパン株式会社 www.nuskin.com
東京都港区虎ノ門1-3-1 東京虎ノ門グローバルスクエア14階
TEL:03-6626-1234(代)

